

単元指導計画と評価規準

科目名 家庭基礎

単元名 子どもの生活と子育てのマネジメント

内容のまとめり A 人の一生と家族・家庭及び福祉

(3) 子供の生活と保育

1 単元の目標

- (1) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決を主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。	子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（9時間）

- | | |
|-----------------|-----|
| 〔1〕 乳幼児の成長・発達 | 2時間 |
| 〔2〕 こんにちは、赤ちゃん | 1時間 |
| 〔3〕 子どもの仕事は「遊び」 | 1時間 |
| 〔4〕 子どものいる暮らし | 1時間 |
| 〔5〕 親になるということ | 1時間 |
| 〔6〕 社会で子育て | 3時間 |

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（・評価規準、【 】評価方法）
1 2	<p>【ねらい】乳幼児の心身の成長・発達の特徴について理解させ、乳幼児期の重要性について気づかせる。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の保育人形を抱き、大きさや重さを体験する。 ・体の発達について理解する。 ・心・言葉・知的能力・社会性の発達について理解する。 ・愛着の形成をテーマに乳幼児に対するかかわりを考える。 	知 ① 思 ①	(★) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の身体の特徴、運動能力の発達について理解している。【定期考査】 ・子どもの体の発達に関心を持ち、子どもと適切にかかわろうとしている。 <p>【ワークシート・行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健全な発達を支援するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・人間関係を築く基盤となる「愛着」を形成するために、親や保育者として必要なかかわりを表現できる。 <p>【ワークシート・行動観察】</p>
	<p>【単元全体を貫く課題】 子育てを社会全体で支えるために私たちにできることは何だろう。</p>			
3	<p>【ねらい】命の誕生、子ども産み育てることに関心を持たせる。</p>			
	○たまご赤ちゃん誕生 <ul style="list-style-type: none"> ・たまご赤ちゃんに命名し、ペアで2週間協力しながら子育てをすることを考える。 ・たまご赤ちゃんの取り扱い注意事項と責任感について話し合う。 ・保育日記の記入方法とルールを説明する（MetaMoji） 	主 ①	○	<ul style="list-style-type: none"> ・命の誕生や子育てに関心を持ち、将来的には当事者となる可能性を見据えて学ぼうとしている。【ワークシート・行動観察・MetaMoji 課題】
4	<p>【ねらい】子どもの発達における遊びの意義を理解させる。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の子どもの頃の遊びについて家族にインタビューを行う。それを元にグループで交流を行う。 ・遊びを通して子どものどのような能力が発達するか知る。 ・遊びの意義や遊びにおける環境の変化について考える。 ・子どもが安全に遊べる身近な空間について考える。 	知 ② 思 ②	(★)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達や健康を保持増進させる遊びの意義、環境について理解している。【定期考査】 ・子どもの心身の発達を促す遊びの環境づくりで、家族や保育者が配慮しなければならないことを考え、表現できる。 <p>【ワークシート・行動観察】</p>

5	【ねらい】生活習慣を身に付けることの重要性、子どもの健康と安全について理解させる。		
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生活習慣を身に付けるために必要な親の役割を理解する。 ・子どもの病気と事故の予防について理解する。 	思 ③ 知 ③	(★)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けさせることや、安全に生活するために必要な環境を具体的に考えることができる。 【ワークシート・行動観察】 ・子どもの健康管理と安全への配慮について理解している。 【定期考査】
6	【ねらい】子育ての中で親自身も成長することに気付かせ、子供を産み育てることの意義や楽しさについて考えさせる。		
○たまご赤ちゃんお別れ会 <ul style="list-style-type: none"> ・2週間の育児日記をペアで振り返り、気づいたことや感じたことを交流する。 ・育児に関するグラフを読み取る。子育てから得られる喜びや子育ての負担や悩みを具体的に知る。 ・夫婦でできる育児の工夫、企業や地域が果たす役割について考える。 	思 ④ 主 ②	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを生み育て育てることの意義や得られる喜び、増える負担に関してペア活動を通して具体的に表現することができる。【ワークシート・行動観察】 ・親の役割、子育てに必要なサポートを考えようとしている。 【ワークシート・行動観察】
7 8 9	【ねらい】現代の子育て環境の変化や課題について理解させ、社会全体で子育てを支援していくために自分自身ができることについて考えさせる。		
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもや、子育て家庭を取り巻く社会環境の課題について理解する。 ・子育て支援について理解する。 ・飛騨地区の少子化の現状を知り、原因と影響について考察する。 ・飛騨地区の子育て支援に関する現状から課題を見つける。 ・地域の子育ての課題に対して、高校生として具体的にできるアイデアを考え、発表を行う。 ・社会の一員として、地域社会の課題に対し自分自身が取るべき行動について考えまとめる。 	知 ④ 思 ⑤ 主 ③	(★) ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 ・子育て支援について理解している。 【定期考査】 ・地域の少子化の原因と影響について自分自身の将来と照らし合わせながら社会全体で子育てを支援していくために考えている。【ワークシート・行動観察】 ・子育て支援や制度について関心を持ち、将来子育てをする立場であることを見据えて考えている。 【ワークシート・行動観察】 ・社会全体で子育てを支援する一員として、地域の課題を解決するための方法を考えようとしている。【発表内容・ワークシート・行動観察】

4. 学習指導案

科目名	家庭基礎	指導クラス	I年B組
単元名	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント (9時間)	使用教科書	Creative Living (大修館書店)
本時の主題	社会で子育て(9時間目/9時間)		
指導観	日本の少子化は深刻な社会問題となっているが、特に本校がある神岡町は若者の流出と出生率の低下により過疎化が急速に進む町である。身近な地域の課題について情報を収集・整理し、課題の解決に向けて多面的に考察できるようにする。また、共生社会の実現に向けて、地域社会の一員として何ができるか考え、地域や社会の様々な活動に参画しようという意識を高めたい。		
本時の目標	地域の子育てに関する課題に対して高校生として具体的にできることを考え、実行可能なアイデアを提案する。		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 5分	本時の目標確認	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りを行い、本時の目標を確認する。 【課題】 地域の子育てに関する問題に対して、高校生としてどのような貢献ができるか考える 	
展開 40分	<p>アイデアの整理と方向性を決める</p> <p>プラン作成</p> <p>発表</p>	<p>グループに分かれ、前時のグループ活動で考えた地域イベントの案について交流する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子参加型ワークショップ 親子ミニ運動会 絵本の読み聞かせ カフェスペース ハロウィン仮装コンテスト クリスマス会 <p>高校生が取り組める地域イベントとして実現可能で魅力的なものか検討し、具体的なプランを作成する。</p> <p>各グループが考えたアイデアを発表する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で親子でゆっくりできるカフェスペースを設け、高校生が飲み物を提供する。子どもが自由に遊べるコーナーを併設して高校生が見守り役をする。(母親にリラックスする時間を提供できるため) 高校の中庭を活用し縁日イベントを開催する。子供向けのゲームコーナーを複数用意する。(定番イベントなので参加しやすい。親子で楽しめる。) 	<p>評価規準</p> <p>【主体的態度】</p> <p>社会全体で子育てを支援する一員として、地域の課題を解決するための方法を考えようとしている。</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 発表内容 ワークシート 行動観察 <p><Aの例></p> <p>社会全体で子育てを支援する一員として、地域の課題を自分事として捉え、解決するための方法を主体的に考え実践しようとしている。</p>
まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りと自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標と学習内容を確認する。 子育てに関する課題について振り返る。 実現性と効果を軸に案を整理することを伝える。 ターゲットの乳幼児の年齢層も明確にするよう伝える。 <Bを実現するための指導> <ul style="list-style-type: none"> 先行事例の資料を準備する 意見が出しやすいよう付箋を用いる グループ内で役割を決めておく <Cへの手立て> <ul style="list-style-type: none"> 事例をあげ、そこから想像力を膨らませる。 <p>子育てを含む地域社会の課題解決は、協働が不可欠であることを強調する。</p>

	学習活動における具体的評価規準 (B)	「十分に満足できる」と判断される状況 (A)	「努力を要する」と判断される状況 (C)
評価	・社会全体で子育てを支援する一員として、地域の課題を解決するための方法を考えようとしている。	・社会全体で子育てを支援する一員として、地域の課題を自分事として捉え、解決するための方法を主体的に考え実践しようとしている。	・地域の課題を捉えることができず、解決するための方法を考えられない
生徒の状況	・地域の課題を理解したうえで、課題解決のためにできることは何か考えている。	・地域の課題を自分事として捉え、問題意識を持っている。課題解決のために高校生として貢献できることは何か具体的に考え実践しようとしている。	・地域の課題について捉えられているか読み取れない。 ・記述がない。
記入例	・地域の人で育児に困っている人がいたら、支えたりお手伝いをする。 ・自分には関係ないと思わず助けることができると思う。 ・子どもに触れあったりしてできるだけ親のサポートをする。	・飛騨市では、育児不安や子供と気軽に参加できる場所が少なかったり、子供も親も話したりできる人が少ないというのが課題であるので、読み聞かせ会など、親と子供で参加できるイベントをやったり、地域の人がかかわったりする必要があると思いました。親子で参加ができるイベントなどを学校で企画して実施したい。 ・子供を持つ親同士の交流や相談できる場所を作り少しでも育児不安を減らすために、親子が楽しめるようなイベントやゆっくりできる場所を企画して市などに提案したい。	・見守る ・元気を分ける ・積極的に取り組む

5. 成果と課題

◇成果

- ・知識構成型ジグソー法の手法を用い、主体的・対話的な学びになった。
- ・グループの役割分担をあらかじめ決めておいたことで円滑に話し合いを進めることができた。
- ・20分という限られた時間の中で話し合いと発表準備ができるよう、タイマーをホワイトボードに映し時間を意識できるようにした。全グループ時間内に終えることができた。

◆課題

- ・生徒自身が主体的に学び、探究し、発見する「教えずに学ばせる」授業を他の単元でも実践する。
- ・生徒の出した案を2年次選択科目「生活と福祉」でブラッシュアップさせ、2年後に家庭クラブで実現させたい。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」についての評価の難しさを感じた。評価規準が曖昧なところがあり、初めに考えていた方法と違う方法で評価することになった。具体的な行動や到達目標を明確に示した評価規準を作っていきたい。